

## 中学生の自律性支援の認知と学習動機づけとの関連

教育デザインコース 心理学領域  
青島 拓紀

## 1. 問題と目的

## (1) 自己決定理論における動機づけ

動機づけ研究では、内発的動機づけと外発的動機づけの2つが、代表的かつ対立的なものとして扱われてきた。これに対してDeci & Ryan (1985) は、動機づけは自律性と有能感、関係性への欲求という3つの基本的心理欲求が満たされている程度によって生じるという仮説を基に、自己決定理論 (Self-determination theory) を提唱した。現在、自己決定理論は、研究の発展とともにいくつかの下位理論が加えられてきている。

自己決定理論の下位理論の1つである有機的統合理論では、活動に対する価値の内在化の程度によって、動機づけを内的調整と同一化的調整、取り入れ的調整、外的調整の4つに細分化し、連続的にとらえている。内的調整とは、興味や楽しさに基づく動機づけである。同一化的調整は、活動の価値を自分のものとして受け入れている状態を表す動機づけである。取り入れ的調整とは、恥の回避や他者比較による自己価値の維持などに基づく動機づけである。最後に外的調整とは、報酬の獲得や罰の回避に基づく動機づけである。有機的統合理論に基づいた先行研究では、内的調整や同一化的調整といった自律的な調整スタイルが学業成績と正の関連を持つことが示されている (西村・河村・櫻井, 2011 ; 安田, 2015)。

## (2) 自律性支援とその測定について

児童生徒の自律的な動機づけを促す教師の指導として、自律性支援 (Autonomy support: Deci & Ryan, 1987) がある。自律性支援とは、児童や生徒の立場に立ち、彼らの選択や自発性を促すことである (岡田, 2014)。先行研究において、自律性支援は基本的心理的欲求の充足を媒介して動機づけと関連すること (Jang, Reeve, Ryan & Kim, 2009)、内的調整や同一化的調整といった自律的な動機づけと正の関連を持つことが報告されている (Hardre & Reeve, 2003 ; Taylor & Ntoumanis, 2007)。

児童生徒が認知した教師の自律性支援を測定する尺度として、William, Grow, Freedman, Ryan & Deci (1996) の Learning Climate Questionnaire (LCQ) がある。自律性支援に関する多くの先行研究ではLCQが用いられてきた (岡田, 2018) が、国内においては、妥当性および信頼性の検討された翻訳版は作成されてこなかった。

## (3) 自律性支援の効果の個人差

学習動機づけに対する教師の自律性支援の効果は、生

徒の特性によって異なる可能性がある。本研究では、自律性支援の認知と学習動機づけの関連を調整する可能性のある要因として、生徒の自己効力感と学習不安に着目する。自己効力感とは、過去の経験に基づいた行動に対する達成への期待である (Bandura, 1993)。自己効力感の低い生徒に対して自律性支援を行った場合、自律的に行動する力がないため、自律性支援の効果が十分に得られず、自律的な動機づけは向上しない可能性がある。また、課題や活動に取り組むことに強い不安を感じている生徒に対し自律性支援を行った場合、適切に行動できるか不安であるため、自律的に行動できず、自律性支援の効果が見られない可能性がある。

## (4) 本研究の目的

研究1では、自律性支援の認知を測定するLCQの日本語版 (Japanese Version of the Learning Climate Questionnaire, LCQ-J) を作成する。また研究2では、自律性支援の認知と学習動機づけの関連を、自己効力感と学習不安が調整するかについて検討する。

## 2. 研究1

## (1) 調査対象者

首都圏の国立大学附属中学校1校に所属する2年生114名 (男子56名, 女子57名, 不明1名, 平均年齢13.79歳) が調査に参加した。

## (2) 調査内容

LCQ-J 原著者から日本語版作成の承諾を得た後、尺度の翻訳を行った。翻訳後、バックトランスレーションを英文校閲会社に依頼し、日本語版と原版の項目の意味内容に相違ないことを確認した。本尺度は「先生は、私を受け入れてくれていると感じる」など15項目で構成されており、各項目への回答は7件法で求めた。

自律的学習動機尺度 西村・河村・櫻井 (2011) によって作成された尺度を用いた。この尺度は、内的調整 (「勉強すること自体が面白いから」など5項目) と同一化的調整 (「将来の成功につながるから」など5項目)、取り入れ的調整 (「勉強で友達に負けたくないから」など5項目)、外的調整 (「成績が下がると怒られるから」など5項目) の4因子20項目から構成されており、各項目への回答は4件法で求めた。

基本的心理欲求充足尺度 西村・櫻井 (2015) によって作成された尺度を用いた。この尺度は、学校現場における生徒の自律性 (「私は、人から言われずに、自分で決

めて行動していると思う」など4項目), 有能感(「私は、学校での様々な活動によって、自信を得ていると思う」など4項目), 関係性(「私は、まわりの人から大切にされていると感じている」など4項目)の3因子12項目から構成されており、各項目への回答は4件法で求めた。

(3) 結果

i) 因子分析

LCQ-Jの因子構造が原版と同様であることを確認するために確認的因子分析を行ったところ、1項目を除いて因子負荷量は.60以上であった。適合度は、CFI=.90, TLI=.89, RMSEA=.11(90%CI[.09, .13]), SRMR=.06であり、データに対するモデルの当てはまりは許容できると判断された。α係数の値は.94であった。

ii) 相関分析

自律性支援の認知と学習動機づけ、および基本的心理欲求充足との相関係数を算出した。自律性支援の認知は、学習動機づけのうち、内的調整( $r=.31, p<.01$ )、同一化的調整( $r=.25, p<.01$ )、取り入的調整( $r=.20, p<.05$ )と有意な正の相関が、基本的心理欲求充足の全ての下位尺度と有意な正の相関が示され(自律性: $r=.49, p<.01$ ; 有能感: $r=.25, p<.01$ ; 関係性: $r=.53, p<.01$ )、LCQ-Jに一定の妥当性があることが示された。

3. 研究2

(1) 調査対象者

首都圏の公立中学校1校に所属する1~3年生293名(男子159名, 女子123名, 不明11名, 平均年齢13.96歳)が調査に参加した。

(2) 調査内容

LCQ-J 研究1で作成した尺度を使用し、教師の自律性支援に対する生徒の認知について測定した。

自律的学習動機尺度 研究1と同様に、西村・河村・櫻井(2011)によって作成された尺度を用いた。

自己効力感尺度 生徒の学習に対する自己効力感について、伊藤(1996)の尺度を学習一般に適用できるように、表現を一部修正して用いた(「私は、これから先、勉

強が得意であると思う」など6項目)。各項目への回答は6件法で求めた。

学習不安尺度 生徒の学習に対する不安について、曾我(1983)の日本版STAICの状態不安尺度を参考に伊藤・神藤(2004)が作成した尺度を用いた(「勉強している時、何か心配になる」など6項目)。各項目への回答は5件法で求めた。

(3) 結果

学習動機づけと自己効力感、学習不安の関連について、階層的重回帰分析によって検討した。step1では、自律性支援の認知と自己効力感、および学習不安を独立変数とし、step2では、これらの独立変数に加え、自律性支援の認知と自己効力感の積、および自律性支援の認知と学習不安の積を独立変数としてモデルに投入した。

分析の結果、いずれの調整スタイルを従属変数とした場合でも、step2よりもstep1のモデルにおける自由度調整済み $R^2$ の値の方が大きかった。そのため自己効力感と学習不安による調整効果はないと判断し、本研究ではstep1の結果に基づいて、結果の解釈を行う。

step1における重回帰分析の結果を表1に示す。自律性支援の認知は内的調整、および同一化的調整と正の関連を示した。また、自己効力感は内的調整、同一化調整、取り入的調整と正の関連を示した。学習不安は、外的調整と正の関連を示した。

4. 総合考察

自律性支援は基本的心理欲求充足、内的調整および同一化的調整といった動機づけと正の関連を示した。これらの結果は先行研究の知見と一貫しており、自律性支援は自律的な動機づけを高めることが示唆された。

また、自律性支援の認知と学習動機づけとの関連について、自己効力感と学習不安による調整効果はほとんどみられなかったことから、生徒の自己効力感や学習不安に関係なく、自律性支援の認知は自律的な動機づけと正の関連を持つことが示唆された。

表1 step1のモデルにおける重回帰分析の結果

	内的調整		同一化的調整		取り入的調整		外的調整	
	b	SE	b	SE	b	SE	b	SE
自律性支援の認知	0.15 **	0.04	0.14 **	0.04	0.17 **	0.03	0.16 **	0.04
自己効力感	0.24 **	0.04	0.24 **	0.04	0.18 **	0.03	0.19 **	0.04
学習不安	-0.18 **	0.05	-0.18 **	0.05	-0.06	0.05	-0.06	0.05
$R^2$	.30		.23		.22		.06	
Adj $R^2$	.29		.23		.21		.05	

\*\* $p < .01$